

## 令和6年度(2024年度)セタシジミ 0.3mm稚貝生産結果と放流実績

久米弘人・孝橋賢一・井戸本純一

### 1. 目的

北湖漁場のセタシジミは近年生息密度が低下し、漁獲の低迷が続いている。セタシジミ資源の増殖を図るため、稚貝を育成して北湖の漁場に放流した。

### 2. 方法

琵琶湖北湖で採捕した親貝を西の湖で肥育し、水産試験場内の水槽で産卵させてD型仔貝を生産した。D型仔貝をふ化直後からエアリフト式のアップウェリング(UW)法で飼育した。餌として、水産試験場で培養したクロレラをFRP水槽に毎日給餌し、平均殻長が300 $\mu$ m程度になるまで飼育し、琵琶湖北湖に放流した。5月14日、20日の収容ロットでは、培養クロレラの代わりに飼育10日目くらいから、市販クロレラを少量給餌した。

### 3. 結果

稚貝育成および放流の結果を表1に示す(参考に南湖へ放流した稚貝の生産結果も示す)。北湖への放流は6月17日と7月8日に沖島南漁場の保護区内に行い、放流数の合計は1,186万個となった。近年、6月以降に収

容したロットは生残率が悪くなる傾向がみられているが、本年度においても同様の結果がみられ、その原因解明が求められる。本年度は5月に収容したロットでも生残率は過年度に比べて低くなった。5月に収容したロットは市販クロレラを給餌しており、その影響が考えられた。

表2には、参考に過年度からの北湖漁場へのセタシジミ放流実績を示した。

表2 北湖漁場へのセタシジミ種苗放流実績

年度	D型仔貝		稚貝	
	沖島南	松原	沖島南	松原
H30	6,260万個	2,600万個		
H31				
R2			1,262万個	
R3			1,288万個	168万個
R4			1,455万個	815万個
R5			1,320万個	
R6			1,186万個	

表1 セタシジミ稚貝育成および放流の結果

収容時		放流時			飼育水温 最高/最低 (°C)	飼育 日数	生残率 (%)	日間 成長量 ( $\mu$ m/日)	放流漁場
月日	個数 (千個)	月日	個数 (千個)	平均殻長 ( $\mu$ m)					
5月14日	7,365	5月31日	2,860	342	27/20	17	39	10.1	南湖
5月20日	6,480	6月4日	680	345	28/21	15	10	11.7	南湖
5月27日	14,207	6月10日	2,100	315	27/19	14	15	10.4	南湖
6月4日	4,373	6月17日	3,313	299	28/20	13	76	9.9	沖島南
6月5日	18,707	6月17日	5,569	294	28/20	12	30	10.3	沖島南
6月11日	7,953	6月24日	1,053	300	28/23	13	13	10.0	南湖
6月18日	4,100	7月1日	143	302	27/21	13	3	10.2	南湖
6月25日	8,113	7月8日	2,977	306	28/24	13	37	10.5	沖島南
7月8日	2,353	7月19日	408	307	28/24	11	17	12.5	南湖
7月16日	1,472	7月30日	330	302	30/25	14	22	9.4	南湖

日間成長量：飼育中の殻長の増加/飼育日数